

慶應義塾大学緊急医療体制支援特別事業

● 2019 年度

- ・基金運営委員会で強化すべき診療機能・部門について慎重に検討を行い、2つの診療部門を選定しました。当事業において主に病院長が負託するミッションを実行できる人材の候補者を診療科より推薦いただき、医師2名の採用を決定しました。
- ・外国人患者の受け入れ増のための救急診療機能の強化、また、2020年に入り急速に拡大した新型コロナウイルス感染症に対する緊急医療体制の拡充のため、以下の機材・資材の整備を行いました。
 - ・救護用エアテント 2台
 - ・新型コロナウイルス測定用検査機器（PCR）1台、同システム改修
 - ・遠隔診療用モニター 4台
 - ・医療用サージカルマスク



<救護用エアテント>



<新型コロナウイルス測定用検査機器>



<遠隔診療用モニター>

● 2020 年度

2019 年度の基金運営委員会で強化すべき診療機能・部門（消化器内科、救急科）を選定し、2020 年 4 月より 2 名の医師を採用しました。いずれも主に病院長から負託されるミッションを担うことを前提とし、病院における医療体制の維持・発展を推進するため、担当診療科における診療、教育、研究活動にも従事しています。

—2020 年度採用医師の当該年度における主な活動内容—

消化器内科

診療

- ・炎症性腸疾患の外来・入院患者診療
- ・「病棟チーフ」として病棟管理業務、後進医師へのコンサルテーション・診療に関する教育
- ・管理栄養士、医師、薬剤師、看護師等の多職種から構成される Nutrition Support Team(NST)に所属し、栄養管理に難渋する入院患者に対する栄養療法に関する回診とカンファレンス、および継続的な評価とフィードバックを実施

教育

- ・症例カンファレンスにおける若手医師への指導
- ・初期臨床研修医、専修医ならびに大学院生への発表指導
このうち 1 名が国際学会「The 8th Annual Meeting of Asia Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)」において Best Abstract Award を受賞

研究

- ・「炎症性腸疾患と血栓症」というテーマを中心とした大学院生への指導、および当院における実態をもとにリスクの高い患者の見極め方の研究

救急科

診療

- ・集中治療を要する重症患者（特に重症 COVID-19 入院患者）の診療
- ・人工呼吸器や ECMO の COVID-19 に対する特異的治療などの検討
- ・ECMO の診療体制の整備および診療フロー作成
- ・ECMOnet との連携、厚生労働省 ECMO チーム等養成研修事業への参加

教育

- ・専攻医や研修医に対する定期的な論文抄読会の主催、EBM 実践のための指導
- ・オンラインによる学生臨床実習のためのスライドやコンテンツ作成

・ COVID-19 疑い/確定例に対する一次救命処置（BLS）に関する情報更新・教育
研究

- ・ COVID-19 の臨床経験を踏まえた院内診療体制の整備・初期診療に関するレビュー
→第 48 回日本救急医学会学術集会での発表、論文投稿(Keio J Med. 2020)
- ・厚生労働科学特別研究事業の救急領域における感染対策への参加・提言、および救命救急士への講習
- ・米国救急学会雑誌へのアナフィラキシーショックに関する論文投稿(J Am Coll Emerg Physicians Open. 2020)
- ・大動脈解離の早期診断に関する研究

● 2021 年度

- ・ 2020 年度より引き続き、消化器内科および救急科にて計 3 名の医師を採用しました。
（消化器内科は上・下半期に各 1 名採用）
- ・ COVID-19 対応用 PPE として医療用サージカルマスク（20 枚×643 箱）を購入しました。

—2021 年度採用医師の当該年度における主な活動内容—

消化器内科

診療

- ・ 消化器癌の根絶に向けた臨床・基礎の両側面からのアプローチ
- ・ がん患者への適切な抗がん剤治療の提供
- ・ コロナ病棟における診療
- ・ 管理栄養士、医師、薬剤師、看護師の多職種から構成される Nutrition Support Team(NST)に所属し、院内入院患者の栄養管理を実施
- ・ 神経内分泌腫瘍疾患患者の治療
- ・ 炎症性腸疾患患者に対する外来・入院診療（専門外来では 1 か月に約 150 名を診療）
- ・ 消化器内科の専門家で構成されたグループおよび関連診療科と連携し、エビデンスに基づく質の高い診療の提供

教育

- ・ 医学部学生への指導
- ・ 消化器内科後期研修医の学会発表の指導
- ・ 外来補助医や病棟チームの担当医、下部消化管グループの後輩医師など後進の育成
- ・ 国際学会の演題発表者である後輩医師の指導

- ・消化管免疫分野の研究に従事する博士課程学生の指導

研究

- ・神経内分泌腫瘍の原因究明のための研究に取り組み、研究成果を第9回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会にて発表
- ・上記の研究活動が世界的に高く評価され、ニューヨークのメモリアルスローンケタリング記念がんセンターへ留学
- ・慶應義塾大学医学部内科学教室基礎分野 猿田享男賞を受賞
- ・炎症性腸疾患を対象とした臨床研究、および消化管の粘膜免疫分野の基礎研究
- ・「The 9th Annual Meeting of Asia Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)」において、炎症性腸疾患の一つである潰瘍性大腸炎に臨床的に有効と実証された生薬『青黛』の作用機序について発表し、Best Abstract Award を受賞

救急科

診療

- ・集中治療が必要な COVID-19 重症患者の主診療科として入院管理に従事
- ・診療チームの中心的立場で救急外来での診療や集中治療管理に従事
- ・東京オリンピック・パラリンピックにおける医療提供

教育

- ・初期研修医、専攻医に対する定期的なカンファレンス開催
- ・病棟回診時のベットサイドティーチング
- ・初期研修医に対する教育的症例の共有を目的とした検討会の開催

研究

- ・COVID-19 関連の研究として、3大学病院（藤田医科大学病院・名古屋大学医学部附属病院・慶應義塾大学病院）の多施設共同研究による重症 COVID-19 患者のデータ収集・解析を行い、第49回救急医学会学術集会にて発表
- ・重症 COVID-19 の治験への参加



(研修医・専攻医に指導中)

● 2022 年度

- ・ 2020 年度より引き続き、消化器内科および救急科にて 2 名の医師を採用しました。
- ・ 新型コロナウイルスの PCR 検査に使用する資材を購入しました。



(PCR 検査用資材 (UTM305C、FLOQ スワブ他))

—2022 年度採用医師の当該年度における主な活動内容—

消化器内科

診 療

- ・ 1 か月に約 150 名の炎症性腸疾患(IBD)の外来・入院患者診療
- ・ 消化器内科の専門家グループおよび関連診療科と連携し、エビデンスに基づく質の高い診療の提供

教 育

- ・ 臨床研修指導医資格の取得
- ・ 外来・入院診療および臨床カンファレンスにおける後進育成
- ・ 生薬『青黛』に関連した基礎研究の演題発表者の指導
- ・ 消化管免疫分野の研究に従事する博士課程学生の指導

研 究

- ・ 炎症性腸疾患と生薬『青黛』に関連した臨床研究(自施設での前向き介入研究や産学連携の創薬開発)及び基礎研究
- ・ 国内外の学会 (『The 10th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis(AOCC 2022)』、『第 59 回日本消化器免疫学会総会』、『第 50 回日本臨床免疫学会総会』) にて研究発表

救急科

診療

- ・救急搬入患者および集中治療を要する重症患者の診療
- ・COVID-19 重症患者の主診療科として入院管理に従事
- ・第7波における重症 COVID-19 患者の受け入れ、集中治療による救命

教育

- ・系統講義および臨床実習における学生教育
- ・初期研修医・専攻医に対し、週例カンファレンスの開催、および外来・病棟におけるベットサイドティーチングの実施
- ・カンファレンス・学会発表のためのスライド作成指導およびフィードバック
- ・学内の成人教育コース受講による系統だった教育法の習得

研究

- ・心停止蘇生の基礎・臨床研究
- ・全国 15 施設において院外心停止患者に対する水素吸入療法の有効性を検討する多施設共同二重盲検化比較試験への参加
- ・米国心臓協会蘇生シンポジウムにて口頭発表
- ・免疫調整による新規治療法の開発を目指し、マウス心停止モデルを用いた免疫機構と蘇生後脳障害の関連の検討



(心肺蘇生モデルマウス作成を大学院生に指導)